公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2015年9月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆神奈川支部からの情報・・・・・・・・・・1
「会員参加で野鳥の行動観察データベースをつくる取り組み」
◆探鳥会訪問記・・・・・・・・・・・・・・・3
（特集・ツバメのねぐら入り観察会）
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・5
（2015年7月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・・7
・「探鳥会リーダーズフォーラムで分科会を担当しませんか？」
・『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・10
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・11
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・11

◆神奈川支部からの情報

「会員参加で野鳥の行動観察データベースをつくる取り組み」

■神奈川支部による鳥類目録

神奈川支部では、鳥類目録づくりを 1976 年から続けています。約 30 年間の記録は約 20 万件になりました。記録には、種名や観察日、観察地などのほか、野鳥の行動に関する項目も含まれ、データベースを作成しています。野鳥の行動には、採食、同種の争い、異種の争い、巣材運び、排泄、求愛などがあります。最新の鳥類目録Ⅵ（2013 年発行：各連携団体へ 1 部寄贈しています）では、野鳥の行動記録をまとめた行動別目録も作成しました。長く継続して記録を集める事で、野鳥の生活や行動観察から導き出せる保全目標も出せる可能性もみえてきました。

観察記録欄に書かれた野鳥の行動記録には、例えば
「ツバメが〇〇橋の下を飛んでいった」
「ハシボソガラスがムクノキの実を丸ごと食べている」
「ヒヨドリがトカゲを嘴にくわえて、電線にとまっていたが、すぐ飛んでいった」
「アオゲラが、公民館のガラス窓の下にとまりガラスに写った自分に対してガラスを 3 回つついた」
「オスのモズの死体が車にひかれて、〇〇道路の真ん中にあった」
などがあります。

データベース収録の鳥類目録を見ると、図鑑には出ていない鳥の姿が見えてきます。スズメではカキやミカンの液果、マツやケヤキなどの木本の実や種子、タンポポやヒマワリの種子、オカラやパン屑など具体的な記載があります。

その神奈川支部の目録データを研究者が分析して論文を発表しました。花と鳥とのネットワークが研究内容です。例えば、多くの種類の花を食べる野鳥Ａと少ない植物のみに依存する野鳥Ｂでは、生息基盤が異なるという事が考えられます。野鳥Ａより、野鳥Ｂの方が開発や温暖化により生息に影響が出るという可能性が考えられます。

■行動観察データを集めるカタログ探鳥会

神奈川支部の目録カードには、1 枚 1 つの行動観察が出来るようになっています。探鳥会で 30 人の参加者がそれぞれ 10 枚の行動記録を書くと、300 の記録が集まります。

この様な行動観察データは、普段の探鳥会で

も集める事は出来ます。しかしある地域の情報をまんべんなく集めるとすると、情報が少ない場所を補わなくてはなりません。神奈川支部では、カタログ探鳥会と題して、鳥類目録を作成するために会員数が少ない場所で探鳥会を開催して、鳥類目録の分布データを収集しました。当然分布以外にも行動観察の項目もデータが集まります。

多くの人の目があれば、様々な行動データが観察出来ます。探鳥会リーダーには、識別以外にも、鳥類の行動や環境選択など様々な行動観察のヒントを紹介する事で、参加者の行動観察を啓発する事が求められます。

■全国で野鳥行動観察データが集積したら

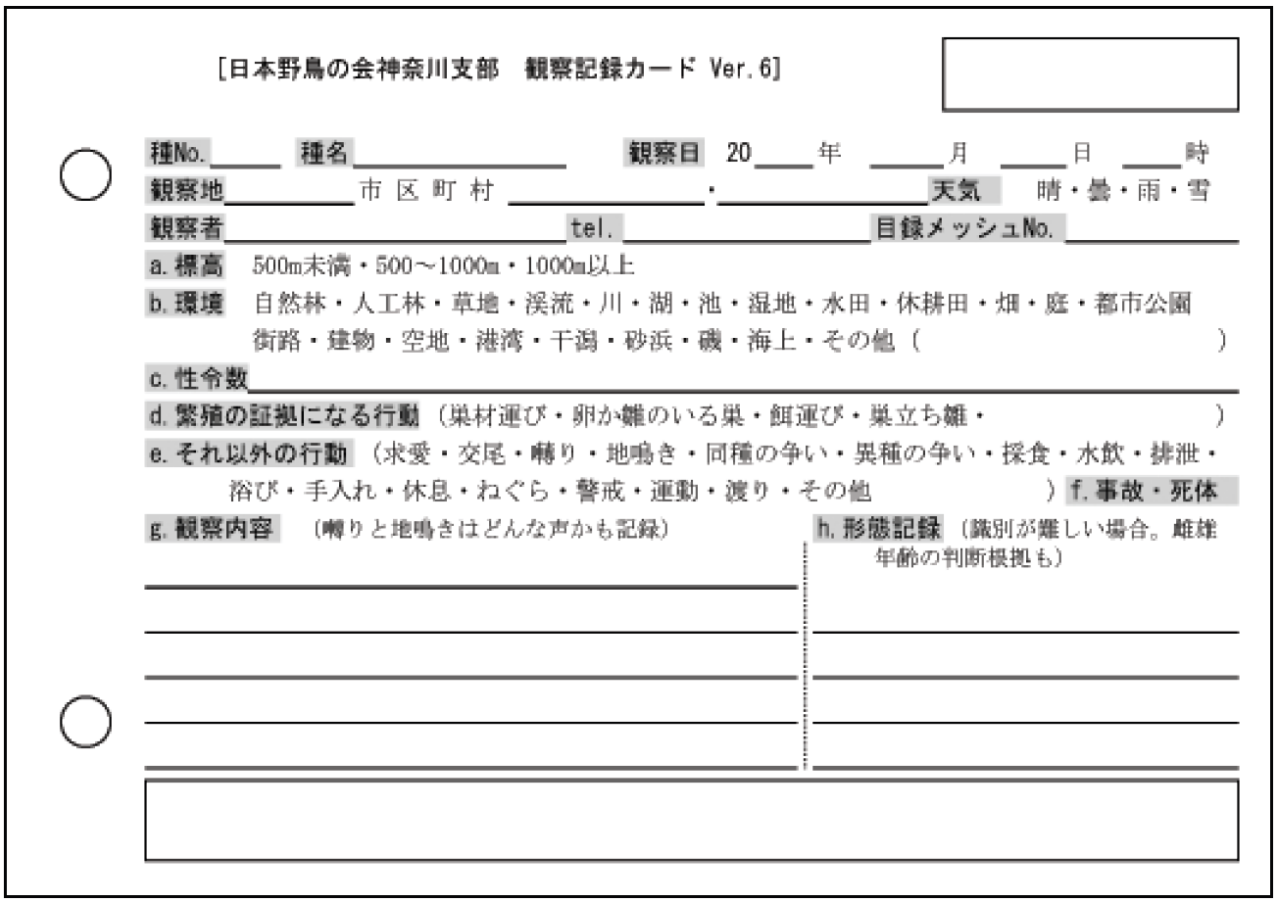
日本野鳥の会では、日常的に探鳥会や日頃の観察で、様々な野鳥の行動記録が集まります。全国で野鳥行動データベースをつくり、会員から情報を集めることが出来ると、季節や分布、経年変化などの分析が可能になり、野鳥と生息環境の保全再生に繋げる事が出来るのではないでしょうか。

今後は財団事務局と相談して、全国の行動観察データベースを作成できないか模索していきたいと思います。

参考：

日本野鳥の会神奈川支部報　2012 年 9 月号
「鳥類と果実が織りなすネットワークのすがた」　吉川徹朗
日本野鳥の会神奈川支部報　2014 年 8 月号
「神奈川県鳥類目録から見えてきた鳥と花との複雑な関係」　吉川徹朗

（神奈川支部、財団評議員／石井隆）



[日本野鳥の会神奈川支部　観察記録カード Ver.6]

種No.＿＿　種名＿＿＿＿＿＿　観察日　20＿＿年　＿＿＿月　＿＿＿日　＿＿＿時
観察地＿＿＿＿＿市 区 町 村 ＿＿＿＿＿＿・＿＿＿＿＿＿＿天気　晴・曇・雨・雪
観察者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿tel.＿＿＿＿＿＿＿＿目録メッシュNo.＿＿＿＿＿＿
a. 標高　500m未満・500～1000m・1000m以上
b. 環境　自然林・人工林・草地・渓流・川・湖・池・湿地・水田・休耕田・畑・庭・都市公園
街路・建物・空地・港湾・干潟・砂浜・磯・海上・その他（　　）
c. 性令数＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
d. 繁殖の証拠になる行動（巣材運び・卵か雛のいる巣・餌運び・巣立ち雛・　　）
e. それ以外の行動（求愛・交尾・囀り・地鳴き・同種の争い・異種の争い・採食・水飲・排泄・浴び・手入れ・休息・ねぐら・警戒・運動・渡り・その他　　）f. 事故・死体
g. 観察内容（囀りと地鳴きはどんな声かも記録）　h. 形態記録（識別が難しい場合。雌雄年齢の判断根拠も）

▲神奈川支部の目録カード

◆探鳥会訪問記（特集・ツバメのねぐら入り観察会）

ツバメのねぐらを多くの方に知っていただこうと、今年は「ツバメのねぐらマップ」を作成し、支部の皆さんにも探鳥会でご活用いただきました。この夏、新たに３ヶ所の観察会に参加しましたので、各地の様子をご報告します。

■夕涼み探鳥会＆ツバメのねぐら入り観察（奥多摩支部）

参加日時：2015年8月1日（土）
16時～20時
天候：晴れ
参加者：50名（うち非会員31名）

開催場所は、東京都府中市の多摩川中流域。地元で活動する団体からの協力を得て、奥多摩支部で初めてツバメのねぐら入り観察会を開催しました。毎年3万羽規模のツバメが見られる場所ですが、なぜか今年はねぐらがつくられていない、という状況での開催でした。

16時に集合し、ツバメのねぐらの場所まで河川敷を進みながら2時間程バードウォッチングをしました。飛びながら鳴くセッカや高い木にとまって鳴くホオジロ、ねぐらに向かうムクドリの群れなどを観察しました。

ねぐらのある場所に着くと鳥合わせをし、ツバメを待ちましたが、ツバメはほとんど現れません。そのうちに辺りはアブラコウモリがいっぱいになり、まるでツバメのねぐら入りのような数で飛ぶコウモリの観察を楽しみました。

なお、ツバメは約6km上流のヨシ原にねぐらをつくっていたことをリーダーが確認しました。

▲河川敷でのバードウォッチング

■境川遊水地公園ツバメのねぐら観察会（神奈川支部）

参加日時：2015年8月2日（日）
16時～19時30分
天候：晴れ
参加者：58 名（うち非会員 39 名）

横浜市の境川遊水地公園は、境川下流部の遊水地を平常時に公園として利用している場所で、ツバメがねぐらをつくる場所が2ヶ所あります。本来は閉園している時間ですが、神奈川支部では公園と共催することで開催できています。

集合場所のバス停から1時間程、田んぼ沿いや雑木林で、生きものの観察をしながら、公園に向かいました。樹液に集まる昆虫、田んぼでエサをとるアオサギ、上空を飛ぶヒメアマツバメなどが見られました。

公園に到着し、池の昆虫や野鳥を観察しながらツバメを待ちました。2週間前の公園主催の観察会では数千羽が見られたそうですが、何とこの日は水面を行き来するツバメが少し見られるだけで、日没となりました。

その後、施設内でリーダーからツバメのねぐらの写真を見せてもらい、夜に活動する野鳥やコウモリが見られたことを確認しました。

▲公園施設でリーダーから説明を受ける参加者

■豊中・赤坂下池ツバメのねぐら平日探鳥会（大阪支部）

参加日時：2015年8月5日（水）
18時～19時30分
天候：晴れ
参加者：42 名（うち非会員 19 名）

赤坂下池は、駅から歩いて 15 分ほどの住宅地の中にあります。灌漑用の貯水池として整備された場所で、池の周囲がヨシ原となり、その周囲はフェンスで覆われています。

18 時 30 分頃になるとツバメが次第に集まりだし、水面近くを飛び始めました。19 時頃になると頭上近くや上空をツバメが飛び交い、圧巻の光景になりました。リーダーによるとその数は、約 1 万 2 千羽。大阪支部では他団体と協力して大阪府のツバメのねぐら調査をしていますが、この場所では生育期のヨシ刈りなどで一時期ツバメの減少が見られたものの、その後はヨシの生育環境を見守り続けることで地元の協力が得られ、ツバメの数が回復しているとのことでした。

19 時 20 分頃になるとほぼすべてのツバメがねぐら入りし、ヨシ原に入りきらなかったのか、電線で眠るツバメの姿も見られました。

これまで 10 か所程でツバメのねぐらを見て来ましたが、これほどツバメとの距離が近い場所は初めてでした。フェンスのすぐそばでヨシにつかまるツバメの姿を観察することができました。

▲住宅に囲まれた赤坂下池

◆まとめ

どの探鳥会でも半数以上が非会員の方で、ツバメの人気ぶりが感じられた一方、今年は、ツバメが見られないという場所が続きました。（奥多摩支部主催の観察会と同じ場所で計画していた、財団主催のツバメのねぐら入り観察会も、1回目は止む無く中止、2回目は、ツバメ以外の生きものも観察することで実施しました）また他の支部の方からも、今年は見られなかった、場所が移動したので開催場所を変更した、といった声が聞かれました。

ツバメのねぐら入り観察会は、ツバメのねぐら入りが見られれば、それだけで多くの方に感動していただける観察会になりますが、1種に頼っている分、見られない場合のことも考えなくてはならないのだと感じました。奥多摩支部の観察会のように、少し早い時間から始めて夕暮れのバードウォッチングを楽しんだり、神奈川支部のように野鳥以外の生きものも観察したり、写真を用意してツバメのねぐらの説明をしたりといった工夫が必要なのだと思いました。参加させていただいた奥多摩支部の反省会では、おおまかな場所と日程だけを決めて、申込制で広報し、具体的な集合場所などは、下見の結果を見て改めて申込者にお知らせしてはどうかという案も出されていました。

河川敷、公園、貯水池と多様な環境に行きましたが、ツバメがどのようにねぐらの場所を選んでいるのかついては、場所によっていろんな意見が聞かれ、まだまだ分からない部分が多いことを実感しました。普及室では、観察会の運営方法の工夫なども含めていろんな支部の事例を集め、ツバメのねぐら入り観察会のマニュアルをつくる予定です。今後ツバメのねぐら入り観察会が全国に広がり、より多くの方にねぐら入りを楽しんでいただけたらと思っています。

（普及室／堀本理華）

◆探鳥会保険集計結果（2015 年 7 月分）

7 月は 68 支部からご報告をいただき、計 172 回の探鳥会が開催され、のべ 3,318 人が参加されました。

表 1.7 月の探鳥会保険集計結果（2015 年 8 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	1	20	4	1	25
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	2	10	8	5	23
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	18	2	1	21
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	3	80	29	10	119
小樽支部	2	10	15	2	27
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	0	0	0	0	0
函館支部	0	0	0	0	0
道南桧山	1	11	10	2	23
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	17	0	2	19
秋田県支部	4	37	2	4	43
山形県支部	1	9	1	2	12
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	8	10	5	23
北上支部	2	13	1	2	16
宮城県支部	3	40	11	7	58
ふくしま	2	39	0	5	44
郡山支部	3	35	2	8	45
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	3	1	1	16	18
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	29	1	1	31
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	6	52	33	11	96
栃木	−	−	−	−	−
群馬	6	33	11	14	58
吾妻	−	−	−	−	−
埼玉	4	96	27	33	156
千葉県	6	61	15	24	100
東京	11	282	14	53	349
奥多摩支部	5	28	8	14	50
神奈川支部	6	96	42	23	161
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	44	18	2	64
石川	1	17	0	3	20
福井県	0	0	0	0	0
長野支部	3	28	6	5	39
軽井沢支部	1	10	16	1	27
諏訪	1	5	5	2	12
木曽支部	1	3	4	1	8
伊那谷支部	2	16	18	4	38
甲府支部	2	28	2	4	34
富士山麓支部	1	4	14	3	21
東富士	−	−	−	−	−
沼津支部	1	15	0	2	17
南富士支部	1	13	2	1	16
南伊豆	0	0	0	0	0
静岡支部	3	12	0	8	20
遠江	1	26	6	4	36
愛知県支部	7	63	38	21	122
岐阜	−	−	−	−	−
三重	0	0	0	0	0
奈良支部	2	54	14	4	72
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	3	12	14	6	32
京都支部	3	48	21	9	78
大阪支部	17	170	38	75	283
ひょうご	4	47	79	11	137
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	26	13	3	42
島根県支部	1	5	0	1	6
岡山県支部	3	73	33	13	119
広島県支部	2	17	35	8	60
山口県支部	1	13	2	1	16
香川県支部	2	65	13	2	80
徳島県支部	5	46	8	5	59
高知支部	1	13	15	1	29
愛媛	4	38	18	6	62
北九州	1	12	3	1	16
福岡支部	6	81	14	15	110
筑豊支部	3	16	1	3	20
筑後支部	0	0	0	0	0
佐賀県支部	2	19	5	2	26
長崎県支部	−	−	−	−	−
熊本県支部	3	34	7	4	45
大分県支部	2	19	4	2	25
宮崎県支部	1	9	0	1	10
鹿児島	0	0	0	0	0
やんばる支部	−	−	−	−	−
石垣島支部	−	−	−	−	−
西表支部	−	−	−	−	−
全国	172	2,126	713	479	3,318

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■探鳥会リーダーズフォーラムで分科会を担当しませんか？■

７月号でもお伝えしたように、今年度も 2016 年１月 30 日、31 日に「探鳥会リーダーズフォーラム」を開催します。（昨年度の報告は「探鳥会スタッフ通信 2015 年５月号」を参照。URL: http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201505.pdf）

探鳥会リーダーズフォーラムは、探鳥会運営のノウハウを集約し、支部を超えた探鳥会リーダー同士の交流を通じて探鳥会運営技術を向上させることを目的としています。昨年は合計７つの分科会を開催し、テーマごとに熱い議論を交わしました。

今年も 6～7 つ程度の分科会を開催したいと思っております。つきましては、分科会の企画を募集いたしますので、ご希望の方は以下の要領にそってお申し込みください。

※一般参加の申し込みは 11 月頃になる予定です。
※分科会企画者への参加費の割引はございませんのでご承知下さい。

**【2015 年度
探鳥会リーダーズフォーラム実施概要】**

＜時　期＞　2016 年１月 30 日（土）13:00
～　31 日（日）12:00
＜会　場＞　八王子セミナーハウス
＜対　象＞　支部、連携団体の探鳥会リーダー
＜定　員＞　50 名
＜参加費＞　10,000 円（1 泊２日）
＜プログラム＞

１日目	13：00	受付
	13：30	オリエンテーション
	14：00	アイスブレイキング
	15：00	第１分科会（2 時間）
	17：00	チェックイン、休憩
	18：00	夕食
	19：00	懇親会
２日目	6：30	早朝探鳥会／自由集会
	8：00	朝食
	9：00	第２分科会（1 時間 30 分）
	10：30	休憩、移動
	11：00	まとめ
	12：00	終了

【分科会募集要項】

以下の記入項目をご記入いただき、2015 年 10 月４日（日）までにメールでお申し込みください。
（お申し込み先：tancho-staff@wbsj.org）

分科会の開催については、内容や応募数を勘案し事務局で選定させていただきますのでご了承ください。

＜記入項目＞
① テーマ：（　　）
② 内　容：（　　）100 字程度
③ 参加人数：（　　）人～（　　）人の間
④ 雨天の場合：
雨天中止・少雨決行・雨天決行
（〇で囲ってください。）
⑤ 希望実施日：1/30・1/31・どちらでも
（〇で囲ってください。）
⑥ 場　所：屋内・屋外（〇で囲ってください。）
⑦ 代表者氏名：所属連携団体名
お名前
メールアドレス

（普及室／箱田敦只）

■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■

この連載の読者から、「新版は野鳥誌で取り上げるべき」と後押しもいただき、11 月号に 4 頁のスペースが確保され、準備中です。一方で、協力いただいた研究者などから細部についてご指摘をいただいている箇所もあるので、今後、修正すべきかなどの検討も始めています。野鳥誌で紹介できるものではありませんので、裏話として事例を紹介しておきます。

◇ミズカキチドリは蹼で見分けられるか？

近年、一部で話題にされるようになったミズカキチドリは、ハジロコチドリとの識別が難しい上に同種とみなす学者もいます。増補改訂版では、ハジロコチドリの類似種の解説の中で「ミズカキチドリと思われる観察例もある」と触れるにとどめました。が、論文も出され、目録 7 版では掲載種となったので、新版では記録として扱うことにしました。ただ、スペースがないので識別点は「足指にある小さなみずかきが比較的大きい」としか書けませんでした。

これを読んだ橋本宣弘さんから「これでは不十分ではないか？」と指摘をいただいています。橋本さんは『山階鳥類学雑誌』で「日本におけるミズカキチドリの初記録」を書かれた方で、曰く・・・ハジロコチドリも外趾と中趾の間にはみずかきがあるので、ミズカキチドリの識別には内趾と中趾の間のみずかきをポイントとして書いたほうがよい・・・。今後、限られたスペースでこのご指摘に沿うためには、どうしたらよいでしょう？「鳥の各部と名称」で足指（趾）とした 4 本を、内趾（第 2 趾とも呼ばれ、前向きの 3 本の内側）、中趾（第 3 趾）、外趾（第 4 趾）などと区分して示すことも検討しています。

ちなみに増補改訂までは「水かき」と表記していましたが、新版では「みずかき」に修正しています。主に用語解説で相談させていただいた亀谷辰朗さんの「学術用語としては『蹼』としたほうがよいが、これでは読みにくいとするなら、水掻きではおかしいので、すべてひらがなにするのが適切ではないか」という見解によりました。

◇コシアカツバメか？オオコシアカツバメか？

新版の取り組みで、主に山野の鳥の修正点をチェックしてもらった渡部良樹さんほかから、「コシアカツバメの分布図では台湾で 1 年中見られるようになっているが、それでよいのか？」との指摘がありました。確かに、目録 7 版ではコシアカツバメの分布に台湾の記述はないのですが、台湾の分布で参考文献とした『台湾の野鳥 300 図鑑』(張剎那(主編).2009. 社団法人中華民国野鳥学会）では、コシアカツバメが留鳥とされているのです。

コシアカツバメには複数の亜種があり、オオコシアカツバメを別種とする見解も多くなっているものの、混同されている可能性もあります。渡部さんが調べた範囲では、『Handbook of the Birds of the World』でも両者は別種扱いで、コシアカツバメは台湾には生息していないことになっているそうですが、今後の研究や文献の動向を気にかけておくようにしたいと思います。

ちなみに『台湾の野鳥 300 図鑑』を元に新版の分布図で台湾を直した例では、ハリオアマツバメ（留鳥から夏鳥に）、サンコウチョウ（台湾本土は削除）などがあります。

なお、コシアカツバメの解説文中、巣の参照頁が P347 になっていましたが、実際は次の P348 でした。お詫び申し上げるとともに、参照頁のずれとはいえ確実な間違いですから、少なくとも 2 刷りの段階では修正したいと考えています。

◇初列雨覆か？初列大雨覆か？

渡部さんからは、「鳥の各部と名称」で初列雨覆の名称を揃えたほうがよいのではないか？とのご指摘もいただいています。新版をお持ちの方は P15 を参照下さい。高野による線画でカモの翼上面を使った部位の名称を示した部分に、「初列大雨覆」とあります。増補改訂までは、小鳥などでは初列雨覆を大中小に区分しないことも多いので、高野が示したまま「初列雨覆」としていました。

ところが、高野が描いたカモの翼をよく見ると小翼羽との間に、初列中雨覆までが描かれています。図鑑では、厳密にすればするほど難しくなって、誤解や混乱の元になることもあるので、著者判断が問われるわけですが、田仲謙介さんと相談した結果、「初列大雨覆」と直し、P350「羽･幼羽と年齢･鳥の体」に補足説明を書くことにしました。

新版での追記や修正については渡部・田仲・安西の３人で吟味、検討していたはずでしたが、今にして思うとこの修正に関しては、渡部さんとは詰めていなかったのかも知れません。同じ頁にある小鳥の静止図では「初列雨覆」としてあるので、今後、カモの翼上面で示した「初列大雨覆」は「初列（大）雨覆」としたほうがよいと考え直しているところです。

◇ヤブサメの尾羽は 12 枚か？

指摘された例ではないのですが、本格的バードウォッチングマガジンとされる雑誌の ９ 月号を見ていて、愕然としてしまいました。「野鳥図譜」という連載がヤブサメで、そこに尾羽 12 枚と書いてあったからです。

新版 P252 のヤブサメの解説で・・・本種とウグイスは尾羽が 10 枚しかない（12 枚の種が多い）・・・と書き足しました。海外の文献も調べてくれる渡部さん、標識調査にも従事している田仲さんに、直ちに真偽の確認をお願いしました。田仲さんによると「個体差として、稀に 10 枚でないものもいる」、渡部さんによると「文献に目を通した範囲ではやはり 10 枚だが、雑誌９月号で描かれた図版は 11 枚にも見えるので、典型的でない個体が描かれた可能性もあるのではないか？」とのことでした。

新版は田仲さんや渡部さんをはじめ複数のチェックをいただきながら編纂されたわけですが、これも野鳥誌には書けそうにないことを思い出したので、ここに書き止めておきます。

アイスランドカモメは増補改訂では目録 ６ 版で検討中という扱いであったので、「北海道、千葉県などで冬期に観察例がある」としました。目録７版では掲載種となり、九州の記録も記述されたので、新版では「北海道、千葉県、九州で記録された」と書き直そうとしていました。

ところが、「九州の記録は誤認の可能性がある」との渡部さんの指摘から、カモメ類の修正案を相談していた小田谷嘉弥さんに確認を求めたところ、「交雑種の誤認であり、アイスランドカモメではない」との見解でした。田仲さんとも相談した結果、ここは目録７版に沿わすことができないとして、「関東以北で冬期に記録がある」にとどめることになったわけです。

（普及室／安西英明）

▲画像の紹介は、新版での追記種として谷口高司さんに描いてもらったウスハイイロチュウヒです。本種は増補版の元になった野鳥記録委員会でも検討されており、1989 年の野鳥誌にも類似種との識別点（初列風切各羽の長さや比率）が記されているので、それに配慮した飛翔図を加えました（大きく扱ったのは幼鳥の静止画です）。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信９月号の電子メール版の購読者数は、先月から 23 名増えて 782 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表２．探鳥会スタッフ通信９月号電子メール版の購読者数（2015 年９月 11 日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪	4
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	2
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	4	静岡支部	3
函館支部	0	遠江	6
道南桧山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	3
山形県支部	5	和歌山県支部	2
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	3	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	24
宮城県支部	39	ひょうご	9
ふくしま	3	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	2
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	7
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	5
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	11
群馬	24	筑豊支部	19
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	36	佐賀県支部	4
千葉県	18	長崎県支部	1
東京	49	熊本県支部	5
奥多摩支部	47	大分県支部	2
神奈川支部	18	宮崎県支部	3
新潟県	1	鹿児島	1
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	27	西表支部	2
		合計	782

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

先日の大雨で被害にあわれた地域の皆さまには心よりお見舞い申し上げます。

ようやく、お天気も秋の風情に落ち着いたようで、これからはタカの渡りを楽しまれる方も多い事でしょう。私も今年は行ってみようと思っています。

今夏、私は初めての「ツバメのねぐら入り観察会」を楽しみにしていたのですが、残念ながら例年の場所では観察できず、空振りに終わってしまいました。大阪でも観察場所を変更したと聞きましたので、自然相手ではなかなか予定通りにはいかないものですね。それがまた面白いとも思うのですが、楽しみにしている参加者の方々への対応を考えるのは大変だとつくづく感じます。

（普及室／植木陽子）

≪お詫びと訂正≫

８月号 P6 右下から２行目（誤）ハロクロハラアジサシ→（正）ハジロクロハラアジサシ
訂正してお詫びいたします。

尚、PDF 版は訂正済みになっております。

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第 30 号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2015 年９月 15 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org